



青少年赤十字

J R C ふくしま

編集発行

青少年赤十字  
福島県指導者協議会  
日本赤十字社福島県支部  
〒960-1197  
福島市永井川字北原田17  
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。  
Our world. Your move.



青少年赤十字福島県指導者協議会副会長  
田村郡小野町立浮金小学校長  
武田 光弘

## ふくしまの復興を 担う人づくり

福島県を代表する観光地として全国に知られる裏磐梯五色沼。この沼のほとりに遠藤現夢（えんどうげんむ）の墓がある。また近くには、「平時災害救護発祥の地」の記念碑がある。

明治の磐梯山噴火は一八八八年七月十五日であった。四百七十七人の命を奪う大災害であった。

遠藤現夢は荒れ果てた裏磐梯の風景を見て、私財を投げ打って植林を始めた人物である。約十万本のアカマツやスギの苗木を植林した。今では五色沼を包み込む林に成長し小鳥のさえずりを聴くことが

できる。

一方の「平時災害救護発祥の地」と記された記念の碑は磐梯山噴火の被災者救援として日本赤十字社が医師を派遣したことを記念して建てたものである。それまでの赤十字活動は戦時救護だけであったが、磐梯山噴火の災害救護活動は国際的にも赤十字平時救護の先駆的な事例となった。日本赤十字社は一八七七年に博愛社として設立し、噴火の前年一八八七年に日本赤十字社に改称され、会津の戊辰戦争を体験している新島八重や大山捨松も赤十字の活動に賛同し、活動している。

本校では、今年の学校の目標を「輝く子ども、輝く教師のいる学校」。キーワードは「気づき・考え・実行する」とした。「輝く」とは自らが発する輝きであり、子どもと教師は炭火のように互いを燃やし、照らす存在であってほしいという意味である。キーワードはJRCの精神であり、子ども達、教師、保護者にも理解しやすいことばである。

JRCの会議で「気づき・考え・実行する」は青少年赤十字の目標に留まらず、人生の目標ではないかという話を聞いた。全校集会や児童会の活動で「気づく」こと「考える」ことの大切さをわかりやすく訴えてきた。小学一年から六年までの年齢にひらきのある中で、全員が同じく理解していくことは難しいが、担任の先生に注釈をつけてもらい取り組んでいる。

さて、今年の夏に行われた青少年赤十字福島県指導者講

習会を視察し、再確認したことがある。この講習会のモットーは運営側からの指示がない講習会であること。参加者が自分たちで計画を立て、実行していくことを基本としていることだ。見ていて気持ちよい活動である。ここでは「先見」「五分前行動」「ボラティア精神」「気づき・考え・実行する」がキーワード。講習会に参加している先生方の自主的な活動が印象的であった。では、このことをどう学校現場で実現するか。その答えは、講習会に参加したJRCの担当者だけでなく、全職員で考えなければならない課題である。

「気づく」ことは「気づかせる」から始まり、教師のしかけやヒントが必要であると考ええる。ただ「気づけ」と言っても無理である。

「考える」についても、考えるヒントが必要であり、意図するところが大事になる。

ここで「実行する」ということが一番難しい。そこには、「勇気」「意欲」「理由」など心が動かなければ理屈では子どもは動かない。本校では、今年から「輝き星賞」を設け、この実行したことに賞を与え

る取り組みを行っている。日頃の学校生活や家庭・地域での生活の中で、自分であるいは自分たちで「気づき・考え・実行した」児童を全校集会で表彰し、教師がその行動の意味づけや価値を話して説明する取り組みである。

例をあげると登校班でゴミを拾ってきた子ども達。けがした友達の手まで走った子。夏休み、一日も休まずラジオ体操を続けた子。なぜ、その行動が素晴らしいかをしっかりと伝える。子どもの小さな行動を見取る教師の力が試される。子どもにも自信を持たせ、実行に移させる。それを教師が見取り、その輪が広がる。地道な取り組みであるが一年間を通して、全児童に「輝き星賞」を手渡したとき、「気づき・考え・実行する」ことの目標を一人ひとりが達成した実感が持てるのではないかと考えている。

東日本大震災から五年。震災の年に小学校に入学した子どもたちが今年には六年生。学校のリーダーに成長している。

ふくしまの復興を担う人づくりはこれからも続く。学校教育の中でこの三つの視点を

平成28年度 青少年赤十字  
福島県指導者協議会役員名簿

| 役員名 | 氏 名   | 学 校 名            |
|-----|-------|------------------|
| 会 長 | 齋藤 吉成 | 福島市立福島第一小学校      |
| 副会長 | 佐藤 和子 | 浅川町立山白石小学校       |
| 副会長 | 武田 光弘 | 小野町立浮金小学校        |
| 副会長 | 菅野 哲哉 | 福島県立光南高等学校       |
| 監 事 | 高橋 裕昭 | 本宮市立白岩小学校        |
| 監 事 | 高橋 澄子 | 新地町立駒ヶ嶺小学校       |
| 監 事 | 小原 敏  | 学校法人東稜学園福島東稜高等学校 |

五月十二日(木)日本赤十字社福島県支部において福島県教育委員会教育長鈴木淳一様代理、義務教育課主幹福地裕之様、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長藤田伸朔様のご来賓と県内各地区の会長が出席され指導者協議会総会が開催されました。

## 福島県指導者協議会総会開催

## 平成二十八年度青少年赤十字

大切にすることの意義を改めて考える。  
遠藤現夢や新島八重のように

にやがて、子ども達が復興ふくしまの中心で働くころを夢見て。

会議では、前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、全て承認されました。前年度の実績として、新規加盟校や登録式の実施校の増加など成果が見られる一方、指導者研修会や学校公開への参加者が減少傾向にあること、学校統合や行事の重複などで活動の活発化が難しくなっているなどの課題が挙げられました。

また新たな取り組みとして防災教育講演会への期待も大きく、学校はもちろん地域全体に広めていく必要があるという意見もありました。学校公開で生きたいと活動する児童・生徒の様子や、教師自身が「気づき・考え・実行する」機会となる指導者講習会など青少年赤十字活動の更なる充実に向けて工夫し「行動」することが大切であると再確認することが出来ました。

平成二十八年度後半の  
主な行事予定● 青少年赤十字指導者研修会  
並びに学校公開

期日 十月七日(金)

場所 福島市立松川小学校  
福島市立松陵中学校

● 青少年赤十字指導者協議会  
第2回会長会

期日 十一月十七日(木)

場所 福島県支部

● 国際交流集会「Tokyo  
2016」フィリピンメン  
バー受け入れ

期日 十月二十九日(土)

十一月三日(木)

● 福島県高等学校青少年赤  
十字連絡協議会秋季総会

期日 十一月十一日(金)

・ 十二日(土)

場所 郡山市磐梯熱海温泉  
清陵山倶楽部

● 詩・100文字提案作品表  
彰式

期日 十二月二十六日(月)

場所 福島県支部

## ● 青少年赤十字スタディセンター

期日 三月二十二日(水)

場所 山梨県山中湖村東照館

二十七日(月)

## 平成二十八年度

## 青少年赤十字指導者講習会

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実現を図るため、日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育成をはかることと青少年赤十字活動の振興充実を図ることを目的に、八月八日(月)～十日(水)まで下記の日程で行われました。例年はお盆明けの期間に実施されていましたが、昨年の反省から参加しやすい日程という事

で今年度は八月初旬の実施となりました。参加者は幼稚園教諭一名、小学校教諭三十六名、中学校教諭九名、高等学校教諭四名の五十名となりました。

青少年赤十字の特徴あるプログラムである「指示のない生活」「注意深い生活」に始まり、実践目標である「気づき・考え・実行する」を常に意識するとともに、今年度は演技演習に「リラクゼーション」を取り入れ、より児童生徒の実践活動に生かせるような内容となりました。

## 主な内容と講師(敬称略)

## ○ 講話

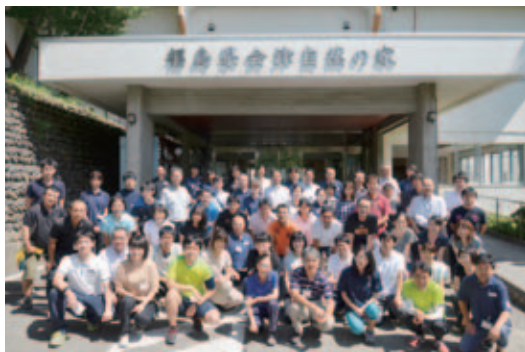
「赤十字と青少年赤十字」  
福島県立福島東高等学校

松本 仁子

## ○ 講話

「ワークショップ・学校教育への活かし方」  
いわき市立好間第一小学校

松本 光司





## ○講話

「青少年赤十字と学校教育」  
県北教育事務所指導主事  
梅宮 賢



## ○防災教育演習

「BCW」

いわき市立好間第一小学校  
松本 光司

## ○実技演習

「健康生活支援講習」

日赤福島県支部

武田 玲子

## ○実技

「非常炊き出し（ハイゼック炊飯）」

日赤福島県支部

久保 芳宏

## ○実技

「三角巾の活用」

日赤福島県支部

土屋 悦男

## ○実技

## 「フィールドワーク」

指導スタッフ

## ○事例発表

福島市立松川小学校

佐久間美智子

福島市立松陵中学校

山崎 充浩

## ○各班のH R担当から

4 H R 金子 瞳

（会津若松市立小金井小学校）

「先生方がキラキラと輝き熱心に学んでいる姿がとても印象的でした。」

3 H R 箱崎 仁

（いわき市立大野第一小学校）

「H R内の雰囲気がとてもよく、課題にも真剣に取り組み最高のチームでした。」

1 H R 鶴沼 秀雅

（青少年赤十字賛助奉仕団）

「初日の表情と閉会式の表情の差、これをぜひ知ってほしいです。各地区会長さんにもできれば両日、むずかしい場合は最終日だけでも視察してほしいですね。」体験も是非。

2 H R 浜津 昌宏

（青少年赤十字賛助奉仕団）

「夏季休業中の講習会に、研鑽に励む教員の皆様に、子供たちの未来が託されています。」

6 H R 松本 光司

（いわき市立好間第一小学校）

「熱く濃い三日間でした。成果を生み出すのはあなたのやる気です。」

5 H R 五十嵐堅一

（田村市立移中学校）

「一生懸命な先生方との研修は私にとって大きな活力となりました。」

7 H R 松本 仁子

（福島県立福島東高等学校）

「暑い夏、熱い語らい、若い

## 指導者講習会に参加し感じた主体的とは

塙町立塙小学校 高橋 大貴

先生たちの豊かな感性と教育に対する情熱に感動しました。」

全体指導 田村 良江

（青少年赤十字賛助奉仕団）

「皆さんが『気づく』ことを実践に移されることが一番大事です。『教師が変われば子供が変わる』という、過去は変えられなくとも未来を変えていく姿勢を子供とともに築いていかれることを切望します。」

「主体的に動くことは大切だよ。」「自分から動こうね。」日頃の生活の中で自分のクラスの子どもたちに言ってしまう。もちろん、そんな簡単にできることではないとは知ってはいたものの、この講習会に参加したとき、私たち大人でも主体的に動くって難しく、覚悟がいることであると思い知らされました。

重要であるということを知り、それを学校現場でどのように生かしていくのかということを考えることとなりました。講義の内容を頭では理解し、いざ行動に……全く思うように動けませんでした。この研修は、研修者たちで研修をつくり上げること、で、班で協力しながら研修を進めていかななくてはなりません。私は班長となり活動が始まりましたが、初対面の先生方と一緒に、班としてのまとまりはあるはずもなく、どうなってしまうのか不安だらけのスタートとなりました。



基本である「気づき・考え・実行する」の最初の段階である気づくことすらできずに、戸惑いながら研修を進めていきました。班のメンバーはほとんど主体的に動き、私を助けて下さいました。私は班長なのに、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。少しずつ班の活動を行ううちに、何となく流されて活動をしている自分にもどかしさを覚えるようになりしました。そこで、改めて、「気づき・考え・実行しよう」と心に決めました。すると、気づくということが少しずつできるようになっていき、実行までできるようになっていきました。そこで、

気づけなかったのは、気づくこととすらしていなかったのだと分かりました。その後は、班で協力しながら活動を行い続けることができました。そして最後には、ただの班のメンバーだったのが、一緒に活動し、思いを共有する仲間となっていました。主体的に動くことで人とつながることのできたのです。

これらの経験から、子どもたちに「主体的に行動しよう。」と言うためには、まず自分が「気づき・考え・実行

## 指導者講習会に参加して

南会津町立館岩中学校 菅野 千春

「この講習の最大の目的は、青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」と態度目標である「気づき・考え・実行する」ことの理解、そしてそれを身につけさせるための学校生活のあり方を考えることにあります。」これは、指導者講習会開催要項の言葉です。青少年赤十字福島県指導者講習会に参加するまで、私は「青少年赤十字」というと、赤い羽根などの共同募金活動

する」という姿を見せていくことが大切であり、子どもたちにもそうさせていくための動機付けを、意図的に、継続的に行っていくことが必要であると分かりました。この原稿を書いている現在、二学期がスタートして早一ヶ月が経ちました。五年生の子どもたちと一緒に実践している最中です。五年生が修了するとき「みんなで成長したね。」と言えるよう、取り組み続けていきたいと思います。

や福祉施設訪問など、ボランティアを活動の中心とする団体だという認識がありました。しかしそれは青少年赤十字の実践目標の「奉仕」という一側面でしかなく、実践目標全体をみると、学校教育のねらいと多くの部分で重複していることがわかりました。特に、態度目標である「気づき・考え・実行する」ことは、生徒が自主的で自律した生活態度を養うために非常に重要な目標であり、私自身、年度

当初に私の担当する学級の生徒にこの目標を掲げました。この講習会で私は、「気づき・考え・実行する」ことの本質を学ぶことができたと感じています。

三日間の日程は非常に充実しており、私たち参加者は、講話・演習・発表・野外活動・ワークショップとさまざまな経験をしました。講習会では、校種ごとに参加者を七グループに分け、各グループを「ホームルーム」と称し、生活運営を行いました。ホームルームでは、各学校の実際の問題解決を目指す具体的な活動計画案を作成し、三日目のワークショップで発表しました。ワークショップではそれまでの講習会で学んだ知識や手法、経験をもちに、各校に戻った際、「さあ、何をしよう。」と考えるのではなく、「さあ、これをするぞ!」と実行できる計画を考えることができました。地区も経験もさまざまな方々と「指示のない生活」「注意深い生活」「自分の考えを持つ生活」「自分にチャレンジする生活」「他のために自分を活かす生活」を基本とした生活を共にすることで、改めて、「気づき・

考え・実行する」ことの大切さと難しさを実感しました。

今回、この講習会に参加することで、指導者として毎日生徒と向き合っていく中で、いつの間にか生徒たちのことばかり気を取られ、自分自身の事をないがしろにしていた自分に気づくことができました。生徒たち一人一人の価値観を高めるためには、指導者自身も、学び続ける姿勢が必要です。「生活の中でニーズを捉え、解決策を考え、実行する。」普段、あたり前の

## 指導者講習会に参加して

福島県立本宮高等学校 高橋 淳子

県北地区指導者協議会の際に、この指導者講習会の参加を打診された時は「どんなことをやるのですか?」とびくびくしていました。本宮高校では、JRCインターアクト部という、【JRC】と【インターアクト】の二つの母体を持つ部活動です。昨年度までは副顧問としてインターアクトの担当だったので、正顧問が他の出張がある時のピンチヒッターでJRCの大会に何度か生徒引率で参加した程

ように生徒たちに求めていることが、いかに多様な力を必要とすることかを、実践の中で学ぶことができました。この講習会の初めに、「みなさんはお客様ではありません。」というお話がありました。私たちは指導者として、子どもたちを「お客様」にさせないための工夫を怠ってはならない。工夫を凝らしたカリキュラムでこのことに気づかせて下さった関係者のみなさまに、深く感謝を申し上げます。ありがとうございます。



度でした。今年度から正顧問になり、いろいろな不安があ





るままに一学期の部活指導をしていましたが、講習会では J R C について指導する際に実際に役立つことを教えてもらえる聞き、二学期以降のためにしつかり勉強しなきゃ!と思いながら参加しました。

初日の講話の中で、「これをするぞと決めて帰ってくださーい」と言われ、とてもプレッシャーを感じ、「これは、やばいところに来てしまったかもしれない」と怯んでしまいました。しかし、アイスブレイクやリラクゼーション、またハイゼックス炊飯や三角巾の活用など書面だけでは理解しにくいことを体験し、さまざまな講話や演習などを通

して、J R C の実践目標や態度目標やまたそれを身に付けさせるための指導の方法等を学ぶことが出来ました。交流会では、小学校の先生方のエネルギーと団結力に圧倒されつつ、たくさん笑わせて頂きました。また H R では、他の高校での実態や活動の様子を具体的に聞くことができ、H R 担当の松本仁子先生からはこれまでの豊富な経験や貴重な情報をたくさん教えて頂くことができました。

課題にされていた「これやるぞ」については、本当に困ってしまわずと考えられずにいましたが、フィールドワークをしながら H R がまとまったことがヒントになって決めることが出来ました。私が考えた行動計画をベースにしながらも、H R メンバー全員が本宮高校 J R C 部の顧問であるかのようにさまざまなアイデアを出してくださいました。私一人では全く気づくことが出来ないような配慮や手順をたくさん提案していただき、そのまま二学期の部活動で実践できそうなものに仕上がったと思います。

部活動で専門外の顧問になってしまった場合、指導に

## 8月8日から10日 日程表

| 時 刻   | 8月8日(月)                        | 8月9日(火)                                  | 8月10日(水)                 |
|-------|--------------------------------|--|--------------------------|
| 6:00  |                                | 起床・清掃 (V・S 活動)                           | 起床・清掃 (V・S 活動)           |
| 7:00  |                                | 朝の集い                                     | 朝の集い                     |
| 8:00  |                                | 朝食、VS 活動                                 | 朝食、VS 活動                 |
| 9:00  | 受 付                            | 先見                                       | 先見                       |
| 10:00 | アイスブレイク・記念写真撮影・開講式             | 実技演習「健康生活支援講習」                           | ワークショップ (WS)<br>[H・R 単位] |
| 11:00 | 講 話<br>「赤十字と青少年赤十字」            | 実践事例発表<br>福島市立松川小学校・松陵中学校                |                          |
| 12:00 | 昼 食                            | 昼 食<br>「ハイゼックス炊飯」<br>「三角巾の活用」            | 昼 食                      |
| 13:00 | ワークショップ (WS)<br>「学校教育への生かし方」   |  | まとめ (WS の発表)             |
| 14:00 | 講 話<br>「青少年赤十字と学校教育」           | 野外活動<br>「フィールドワーク (FW)」<br>[H・R 単位]      | 閉講式                      |
| 15:00 | 防災教育演習「BCW」                    | 野外活動講評<br>[H・R]「活動の反省、一日の振り返り、これからの見通し等」 | 解散予定                     |
| 16:00 |                                | 夕食、入浴                                    |                          |
| 17:00 | [H・R]「自己紹介、役割分担、日程・内容等の確認について」 |  |                          |
| 18:00 | 夕食、入浴                          | 自主活動時間 H・R                               |                          |
| 19:00 | [H・R]「VS・ワークショップについて、交流会対応等」   |  |                          |
| 20:00 | 交流会                            |  |                          |
| 21:00 | 情報交換 (スタッフ打合せ)<br>消 灯          | 情報交換 (スタッフ打合せ)<br>消 灯                    |                          |
| 22:00 |                                |  |                          |
| 23:00 |                                |  |                          |

は非常に苦慮することが多いのですが、J R C ではこの講習会で基本的なことから教えてもらうことが出来て、大変

ありがたく思いました。講習会の準備・運営にあたられた日赤スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

## 平成三十八年度 日本赤十字社福島県支部主催・復興支援事業 国際交流事業「フレイリピン派遣」

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的事業として、県

内の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣し、同国の青少年赤十字メン

バーたちとの交流研修を通じて、国際性豊かな青少年を育成するとともに、本県青少年赤十字活動のより一層の推進を図ることを目的に実施されました。特に福島県は東日本大震災による地震、津波被害に加えて世界にも類のない原子力発電所事故による甚大な被害を受けました。大震災から五年が経過し、ようやく復興へ向けた力強い動きもみられるようになってきました。一方、いまだに十万人近い県民が県内外での避難生活を余儀なくされています。この福島県の現状を派遣メンバーが自ら海外に伝えると共に、数多くの支援を受けたことへの感謝も伝えながら現地

### 参加者

長谷部宏仁 (猪苗代高校三年)、伊達成美 (白河旭高校三年)、鈴木帆夏 (光南高校三年)、田畠佳也乃 (福島成蹊高校二年)、氏家るな (福島東稜高校二年)、佐藤充 (松韻学園福島高校二年)、紺野未夢 (安積高校二年)、宮崎愛凛 (福島県磐城第一高校二年)、深谷珠莉 (須賀川高校

一年)、夷塚陽子(東日本国際大学附属昌平高校教諭)、根本裕之(松韻学園福島高校教諭)、支部職員・土屋悦男(団長)、深谷秀樹 計十三名



## 「フィリピン派遣」に参加して

東日本国際大学附属昌平高等学校 教諭 夷塚 陽子

私たち青少年赤十字フィリピン派遣団十三名は、八月十四日(日)～八月二十日(土)までの七日間の日程で研修を実施しました。事前研修では派遣における意義や目的について学

び、交流内容の検討やお土産の準備をしました。また、自由研究のテーマを考え、それぞれ意見交換をし、派遣研修の意識を高めました。現地に着くとフィリピンの気候は

| 月 日      | 内 容  |
|----------|--|
| 8月14日(日) | 移動日  |
| 8月15日(月) | フィリピン赤十字本社訪問、パヤタス地区訪問(家庭訪問、図書館、LIKHAセンター)      |
| 8月16日(火) | 赤十字ケソン支部訪問                                     |
| 8月17日(水) | バタアン支部訪問、支部職員・ユースメンバーとの昼食会、バタアン観光センター訪問、交流会    |
| 8月18日(木) | サマット山戦争資料館見学、ゼロポイント・フレンドシップタワー、バタアン原発見学        |
| 8月19日(金) | ラスピニャス支部訪問、ユースメンバー・学生との交流、リサイクル施設見学、モールオブアジア見学 |
| 8月20日(土) | 移動日  |

「雨季」にあたっており、雨が降り続いたため洪水になり、道路が冠水してしまい学校が休校となることもあると聞きました。案の定、訪問予定だった学校は雨のために休校になってしまいました。しかし、ユースメンバー(RCY「日本という青年赤十字奉仕団」との交流があり、事前研修で企画・準備してきた「活動報告」の発表や「書道」「スーパーマリオの絵描きパフォーマンス」「ラジオ体操」などを披露して交流会を盛り上げることができました。始まる前の派遣メンバーは硬い表情で緊張している様子でしたがフィリピンメンバーが明るく、積極的に話しかけてくれたことでリラックスして笑顔での交流会になりました。英語力のなさを感じながらも片言の単語と、身振り、手振りを使い、笑顔でコミュニケーションをとっている派遣メンバーをみてTC(リーダーシップトレーニングセンター)で学んだことが生かされていると感じました。

マニラをバスで移動していると高層ビルが建ち並ぶビジネス街や高級住宅街の街並みが続いていますが、一時間ほど走ると、突然スラム街が目に見え込んできます。トタン屋根のみすぼらしい家がひしめき合っています。貧富の差は歴然です。特に印象的だったのはケソン市パヤタス地区の見学でした。バスから降りると異臭がしました。パヤタス地区にはゴミの山(スモークーマウンテン)があり、そこでゴミを拾って再利用できるものを売って生活している人々(スカベンジャー)が住んでいます。パヤタスには約二千人のスカベンジャーがいると言われています。NGOソルトパヤタスのスタッフの方の案内で地域を散策しました。小さな子どもたちがたくさん路上で遊んでいて、狭い道路にはごみや犬の糞があちこちにあり、下を見ないでは歩けませんでした。



バタアンでは戦争資料館やサマット山で戦時中の遺跡見学をして、日本がフィリピンに非人道的なことをした第二次世界大戦のつめ跡を見ました。消せない過去です。同行していたフィリピンの方に聞いた「今の日本人は好きだけど、この思い出は忘れられない」と言っていました。中国や韓国のような反日感情がないのが不思議だと思いましたが、正直な気持ちがあり難いと思いました。

また、バタアンには一度も稼働していない原発があります。(チェルノブイリ原発事故などにより)原発の施設の中に入ったのは初めてでした。一メートルもあるコンクリート壁や制御室を見ることができ、大変貴重な体験でした。最上階では建屋の雨漏りで水たまりができていて、稼働しないまま時間が過ぎてい



るのを物語っていました。

派遣メンバーは福島県の代表として「先見」「VS」(ボランティアサービス)、「振り返り」を実践しながら自分のできることは何かを考える七日間になったと思います。フィリピンの方々は常に笑顔で温かく迎えてくれた一方、貧困の生活でも家族のためにたくましく生き抜こうとする姿は幸福そうに見えました。周りの人たちとの絆が生きる活力になっているのか、生活環境によって他人を思いやる心が自然と育つのか、日本人

より心が豊かだと思いました。実際に現地を訪れないと理解し得ないことだと感じました。この七日間で心が豊かになった気がしたのは派遣メンバーも同じではないかと思っています。

今回の「フィリピン派遣」での貴重な体験は、改めて、「生きる姿勢」を見直すきっかけになりました。この事業に参加させて頂いた日本赤十字社福島支部の方々や関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

## フィリピンで学んだこと

福島県立猪苗代高等学校 3年 長谷部宏仁



私は高校二年生のときに「僕が旅に出る理由」という本を読みました。この本は世界を旅した大学生百人が作った本です。その中に「平和とは何か」という答えを求めてフィリピンに留学した大学生が、日本のニュースには出てこないフィリピンの苦しい現状を目の当たりにして、人生観が変わったという話が記載されていました。その中で特に印象に残っている言葉が

「日本のような国にはなりたくない」という記述です。この言葉の意味は、日本は世界の中でも裕福な国であるが自殺者の割合が世界の中でも高い方に位置し、日本のように命を大切にできない国にはなりたくないという意味です。私はこの本を読んでフィリピンの人々の生き方に興味を持ち、今回の国際交流事業に参加させて頂きました。

今回の研修ではパヤタス地

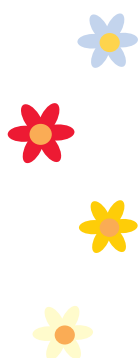


区に住む人たちの生き方や考え方がとても勉強になりました。パヤタス地区はフィリピンの中でも貧困といわれる地域に位置しています。そこには、パヤタスダンプサイトという「ゴミの山」があり、一日当たり六千トン以上のゴミが廃棄され今では高さ約三十メートル、広さ約二十二ヘクタールの大きさになっています。そこでお金になる鉄やアルミなどを拾いながら一日の生活資金を集めているスカベンジャーが二千人以上いま

ており、仕事はスカベンジャーなのです。中村さんが「一日分の食事代を稼げなかったらどうするの」と質問すると「空腹は家族がいれば我慢できるが家族がいなければ我慢できない」という答えが返ってきたそうです。また、「老後は心配か」という質問には「自分が大切に育ててきた子供たちに養ってもらおうから何も心配ではない」と答えました。この話を聞いてフィリピンの人々の家族の絆の強さを知ることができまし

す。私にとって普通な一日を生きることには当たり前になっていきますが、彼らにとって一日を生きることとは簡単ではありません。同じ人間にもかかわらず、これだけの生活環境の違いを目の当たりにしてカルチャーショックを受けました。

フィリピンに四十年住んでいるガイドの中村さんにパヤタス地区に住むある家族の話を聞かせていただきました。その家族は七人で生活しており、仕事はスカベンジャーなのです。中村さんが「一日分の食事代を稼げなかったらどうするの」と質問すると「空腹は家族がいれば我慢できるが家族がいなければ我慢できない」という答えが返ってきたそうです。また、「老後は心配か」という質問には「自分が大切に育ててきた子供たちに養ってもらおうから何も心配ではない」と答えました。この話を聞いてフィリピンの人々の家族の絆の強さを知ることができまし



## 平成28年度 各地区トレセン、指導者研修会・講習会 開催状況

|                | 地 区      | 月 日            | 会 場          | 参加人数 | 主 な 内 容                                     |
|----------------|----------|----------------|--------------|------|---|
| トレーニン<br>グセンター | 福島・伊達・安達 | 7月28日(木)       | フォレストパークあだたら | 48名  | レクリエーション、赤十字救急法講習、フィールドワーク                  |
|                | 郡山       | 8月9日(火)・10日(水) | 郡山自然の家       | 105名 | 赤十字救急法講習、フィールドワーク、グループワーク                   |
|                | 西白河      | 8月17日(水)       | 表郷小学校        | 53名  | 赤十字救急法講習、非常炊き出し                             |
|                | 会津若松・北会津 | 7月29日(金)       | 磐梯青少年交流の家    | 59名  | 講話、赤十字救急法講習、フィールドワーク                        |
|                | 耶麻       | 7月27日(木)       | 会津自然の家       | 69名  | 火起こし体験、野外炊飯、赤十字救急法講習                        |
|                | 両沼       | 7月29日(金)       | 会津自然の家       | 112名 | 講話、野外活動、赤十字救急法講習                            |
|                | いわき      | 7月29日(金)       | 好間第一小学校      | 73名  | 講話、赤十字救急法講習、防災ワークショップ、フィールドワーク              |
|                | 県高校      | 7月7日(木)～9日(土)  | 磐梯青少年交流の家    | 93名  | 国際人道法、赤十字救急法講習、フィールドワーク、選択講座等               |
|                | 県北       | 8月4日(木)・5日(金)  | 日赤県支部        | 67名  | 非常炊き出し、国際人道法、国際理解、防災講習(気象庁WS)               |
|                | 県南       | 7月29日(金)       | 新地町・相馬市・南相馬市 | 85名  | 新地火力発電所、相馬港3号ふ頭、鎮魂記念館、小高地区                  |
| 高 校            | 会津       | 8月10日(水)       | 県立会津高等学校     | 29名  | 国際支援の実際、非常炊き出し、避難所運営ゲーム(HUG)                |
|                | いわき      | 8月9日(火)        | 県立小名浜高等学校    | 35名  | 講演「東日本大震災について」いわき市地域防災センター見学、GW クラウドファンディング |

|            | 地 区      | 月 日             | 会 場            | 参加人数 | 主 な 内 容                |
|------------|----------|-----------------|----------------|------|------------------------|
| 指導者研修会・講習会 | 福島・伊達・安達 | 10月7日(金)        | フォレストパークあだたら   | 9名   | 講話、赤十字救急法講習            |
|            | 岩瀬       | 5月2日(月)         | 岩瀬農村環境改善センター   | 40名  | 講話                     |
|            | 石川       | 6月13日(月)        | 山白石小           | 19名  | 講話、実技「まもるいのち ひろめるぼうさい」 |
|            | 田村       | 6月9日(水)         | 船引公民館          | 34名  | 赤十字救急法講習               |
|            | 西白河      | 6月23日(木)        | 白河一小           | 35名  | 講話                     |
|            | 東白川      | 6月13日(月)        | 常豊小            | 20名  | 講話、赤十字救急法講習            |
|            | 会津若松・北会津 | 7月29日(金)        | 磐梯青少年交流の家      | 18名  | 講話、赤十字救急法講習            |
|            | 耶麻       | 7月27日(木)        | 会津自然の家         | 14名  | 赤十字救急法講習               |
|            | 両沼       | 7月28日(木)・29日(金) | 会津自然の家         | 29名  | 赤十字救急法講習               |
|            | いわき      | 7月29日(金)        | 好間第一小学校        | 9名   | 講話、防災プログラム、赤十字救急法講習    |
|            | 相馬       | 5月25日(水)        | 相馬市鹿島区ふれあいセンター | 40名  | 講話                     |

## 平成二十八年度「生き抜く力」を育む防災教育推進事業各地区研究協議会開催される

福島県教育委員会主催

今年度福島県教育委員会と共催で行う各教育事務所ごとの防災教育研修会に、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を利用している福島県と日本赤十字社との復興、防災対策等に関する共同宣言」に基づき、福島県と日赤が防災教育の連携を図ることを受けての取り組みとなります。各研修会で現場の先生方が興味を持って取り組み、子ども達の防災意識を高めるために学校へ持ち帰って活用したいなどの感想が多く上がっていました。

### 福島県教育委員会と共催で行う各教育事務所ごとの防災教育研修会担当者

| 教育事務所名   | 開催日       | 日赤より派遣した指導者               | 内 容                                 |
|----------|-----------|---------------------------|-------------------------------------|
| 県北教育事務所  | 8月23日(火)  | 菅野勇一郎<br>(県立保原高等学校教諭)     | ・竹ひこタワー                             |
| 県中教育事務所  | 9月7日(水)   | 高橋 誠<br>(相馬市立飯豊小学校校長)     | ・竹ひこタワー<br>・自分だったらどうする              |
| 県南教育事務所  | 9月5日(月)   | シエルバ 愛子<br>(県立白河旭高等学校教諭)  | ・竹ひこタワー                             |
| 会津教育事務所  | 10月6日(木)  | 菅野勇一郎<br>(県立保原高等学校教諭)     | ・竹ひこタワー                             |
| 南会津教育事務所 | 9月8日(木)   | シエルバ 愛子<br>(県立白河旭高等学校教諭)  | ・竹ひこタワー                             |
| 相双教育事務所  | 10月13日(木) | 高橋 誠<br>(相馬市立飯豊小学校校長)     | ・竹ひこタワー<br>・自分だったらどうする              |
| いわき教育事務所 | 7月14日(木)  | 松本 光司<br>(いわき市立好間第一小学校校長) | ・竹ひこタワー<br>・ドローイングチャレンジ<br>・支援物資を運べ |

## 青少年赤十字防災教育プログラム演習の感想

・体験型コミュニケーション能力を体験してみても、本校でも活用してみたいと思いました。コミュニケーション

・シオン能力は、道徳でも総合でもどの場面でも生かすことが出来るので、職員全員で共有したいと思います。

・災害に接し、子ども達にどう行動させることが必要なのか、知識の伝達を中心とした教育を行ってきた。講師の先生が最後に話された「防災教育は未来を拓くもの」が印象に残っている。知恵やよさを出し合って対応できる生き方・考え方を育んでいきたい。

・「プロセスが重要」という点がやってみて実感できました。これもアクティブ・ラーニングかなと思いました。自校の子ども達が挑戦したらどうなるかなと思いました。実践してみたくありません。



相双地区研究協議会

## あ と が き



発行が遅れました、大変申し訳ありませんでした。お忙しい中、原稿をお寄せいただきました先生方始め、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。